（ R05 様式　4 ）

令和　6　年　2　月　22　日

教　育　長　様

代表者	校 園 名：	大阪市立堀川小学校
	校園長名：	衣笠　博政
	電　　話：	6358－3336
	事務職員名：	西　麗美
申請者	校 園 名：	大阪市立堀川小学校
	職名・名前：	校長・衣笠　博政
	電　　話：	6358－3336

研究コース	
Ａ　グループ研究Ａ	
校園コード（代表者校園の市費コード）	
511001	
選定番号	105

令和５年度　「がんばる先生支援」研究支援　報告書

◇令和５年度「がんばる先生支援」研究支援について、次のとおり報告します。

1	研究コース	コース名	Ａ　グループ研究Ａ	研究年数	新規研究（１年目）
2	研究テーマ	**知・徳・体のバランスのとれた児童の育成 ― 問い・対話・振り返りを重視した授業改善 ―**			
3	研究目的	１．単元始での問い、展開での対話、単元末の振り返りを重視することで、見通しを持ち主体的に学びに向かう児童を育成する。 ２．系統を意識することで、基礎・基本を定着し、応用的な力を育成する。 ３．本校の研究の積み重ねを活用し、教えること」「考えさせること」に重点を置き体力の向上を図る。 ４．学習中の言葉に着目し、「学習の言葉：学習用語」「関わりの言葉：支える言葉、関わる言葉」を豊かにし協働する学びを研究する。 ５．教職員の学びの場を保障し、授業観、指導観、児童観をアップデートし、学校力を向上させる。			
4	取り組んだ研究内容	いつ、何のために、どのようなことを実施したのかを具体的に記載してください。（MSｺﾞｼｯｸ 9.5ﾎﾟｲﾝﾄ） 知徳体をバランスよく育成するために年間を通して研究を推進してきた。行頭に主となる対象を記した。 全:知徳体全体に関わる内容、知:知に関する内容、徳:特に関する内容、体:体に関する内容 全【研究企画会】4月5日　研究テーマ、研究の進め方、見込まれる成果等について検討 全【研究推進委員会】4月17日・昨年度までの成果と課題をふまえ、年間計画・アンケートを作成 全【研究全体会・全体研修会】4月24日　研究内容と年間計画の共通理解［資料１］ 全【研究推進委員会】4月26日　児童アンケート・教員アンケートの実施・分析 知【全体研修会❶(校内)】5月22日　「国語科　教材分析研究会」教材分析の方法を学ぶ 徳【全体研修会❷(校内)集団づくり】6月8日　講師:大学教員(旧小学校教員)［資料２］ 知【授業研究会①３年】6月21日(研究授業・協議会)国語科［資料３］ 知【全体研修会❸(校内)理論研修会(教育改革)】講師:大学教員 体【全体研修会❹(校内)実技研修会】7月28日　講師:先進的研究校教員［資料４］ 知【先進的研究校　公開研究会・大学研究会　参加】 知【全体研修会❺(校内)伝達研修会】8月25日　参加者がレポートを作成し学びを共有 知【授業研究会②４年・研究発表会】8月25日,9月5日(指導案検討) 　9月13日(研究授業・協議会)国語科 取組報告,授業協議会,講演 講師:大学教員［資料５］ 徳【全体研修会❻(校内)集団づくり】9月19日　講師:大学教員(旧小学校教員)［資料２］ 知【授業研究会③２年】9月5日(指導案検討)10月4日(研究授業・協議会)国語科［資料３］ 体【実技研修会❻(公開)体育】10月26日　体つくり［資料６］ 体【実技研修会❼(公開)体育】10月31日　陸上［資料６］ 知【授業研究会④１年】10月10日(指導案検討)11月15日(研究授業・協議会)国語科 講師:大学教員[資料３] 知【授業研究会⑤６年】10月30日(指導案検討)11月29日(研究授業・協議会)国語科 講師:大学教員[資料３] 知【授業研究会⑥５年】1月11日(指導案検討)1月31日(研究授業・協議会)国語科 講師:大学教員[資料３] 全【研究推進委員会】2月1日　児童アンケート、保護者アンケートの実施・分析 徳【先進的研究校　公開研究会　参加】2月3日 全【研究推進委員会】2月16日　学力経年調査、アンケートの結果分析 徳【全体研修会❽(校内)集団づくり】2月21日　講師:大学教員(旧小学校教員)［資料２］ 全【研究推進委員会】 全【研究全体会・全体研修会❾】研究のまとめ作成・本年度の成果と課題の共通理解			
5	研究発表等の日程・場所・参加者数	研究発表等を実施した日・場所・参加者数を記載してください。			
		日程	令和　5　年　9　月　13　日	参加者数	約　51　名
		場所	大阪市立堀川小学校		
		備考	パフォーマンス課題に活用できる図鑑の作成［資料７］ Web記事［資料７］		

6	成果・課題	大阪市教育振興基本計画に示されている、<u>子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上</u>および<u>教員の資質や指導力の向上</u>について、申請書に記載した検証方法から得られた結果と、それらからの結果に基づいた考察を、具体的に記載してください。
		【見込まれる成果１】 ☑ 子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上 ☐ 教員の資質や指導力の向上 問いを持ち学びを続ける授業改善により、主体的に学ぶ姿勢を育成できる。単元末の振り返りにより、他の学びにつながる気づきを促すことで、学びの質が向上する。新しい学びをする際、既習の学びを振り返り活用する姿が見られる。「次何をするの？」という児童の声から「次はこれをしたい」という児童の声へ変わっていく。学びの言葉や振り返りに授業の内容が表現されていく。 ≪検証方法≫ 「知識・技能」「思考・判断・表現」の伸びに加え、「主体的に学習に取り組む態度」の伸びを検証する。児童アンケートの「学習は先生が教えてくれるもの」の回答割合が減り、「学習は自分で学んでいくもの」の回答割合が増える。学びの言葉や振り返りを検証することで、授業を振り返ることができる。
		〔検証結果と考察〕 経年調査正答率昨年度比較+1.8(昨年+7.4→今年+9.2:以降同様)であった。詳しく分析すると「知識・技能」+0.2(+8.6→+8.8),「思考・判断・表現」+4.0(+6.2→+10.2)であった。特に,「主体的に取り組む態度」+9.4(+2.2→+11.6)と大幅に昨年を上回り,大阪市平均を超えた。研究の視点である「問い・対話・振り返り」の授業改善が結果に大きく影響したと考える。自分の問いを持ち学習することを重視したことで,学びの意欲が向上し,学び方が変化した。これは児童ｱﾝｹｰﾄの「学習は先生が教えてくれるもの」の肯定割合が88.5%→57.7%と減少し,「学習は自分で学んでいくもの」の肯定割合が65.4%→88.5%と増加した。児童の振り返りからは「自分で考える時間が楽しい」「友だちと考える時間が増えた」「自分でやりたいと思う」と自ら学ぶことで意欲向上へつながった記述が多くみられた。「勉強は苦手だったけど,楽しくなってきた」と学習へ前向きな気持ちになる児童の姿が多く見られ,学力や主体性向上につながったと考えている。
		【見込まれる成果２】 ☑ 子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上 ☐ 教員の資質や指導力の向上 関わりの言葉を大切にしているので、学びの中で互いに支え合い、関わり合う学級風土ができる。集団の良さを教員も児童も感じることで、豊かな学びを展開することができる。一人も残さない学びは、関わりの言葉が大きく影響する。得意なことも苦手なこともチャレンジする意欲を育成し、学びに対して前向きな児童を育成する。 ≪検証方法≫ 授業の満足度が学級の満足度、学校満足度につながっていると仮説を立てたため、児童アンケートの「学級の安心感」「苦手なこともにもチャレンジしようと思う」「友だちが支えてくれた」の項目の肯定的割合が８割以上となる。児童の学びを近くで見ている保護者へのアンケートから、児童の学びへの満足度が８割以上となる。
		〔検証結果と考察〕 関わりの言葉は学びの言葉と支える言葉・関わりの言葉の2種類あると整理した。知徳体のバランスを保つためにも学びの中で集団づくりをすることを大切にしてきた。学びの満足度は100%である。集団づくりの肯定割合「学級の安心感」96.2%,「苦手なことにもﾁｬﾚﾝｼﾞしようと思う」92.3%,「友だちが支えてくれた」92.3%と全ての項目で8割以上となった。学びについての保護者ｱﾝｹｰﾄでは、肯定割合が93.9%と高割合であった。年間を通して知と体の授業研究と理論研修を重ね,集団づくり研修を学期に1回実施し知徳体の研修をﾊﾞﾗﾝｽよく実施した。授業づくりと集団づくりを共に重視した研究が児童・保護者共に肯定的回答を高割合で得られた要因だと考える。大規模校であるため児童数・教員数の多さ,教員の経験年数は様々であるが,学校としての研修の場が教員の指導力や児童を見る視点,見取る力を高めることにつながり,そのことが児童・保護者の満足度へとつながっていると考えている。
		【見込まれる成果３】 ☐ 子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上 ☑ 教員の資質や指導力の向上 教員の学ぶ場を知徳体バランスよく保障することで、学習指導力と学級経営力が向上する。このことは、児童の満足度や学級での居心地の良さにつながる。また、公開授業研究会で実際に授業を見た参加者が満足し、取組内容を実践することで本研究が広まっていくこととなる。 ≪検証方法≫ 教員アンケートから「授業づくり」「学級経営」に関する項目の肯定的割合が８割以上となる。児童アンケートの「学校満足度」「学級満足度」「集団の結びつき」の項目の肯定的割合が８割以上となる。公開授業研究会に参加した教員アンケートの満足度が８割を超える。本校の取り組みを実践する割合が８割以上となる。
		〔検証結果と考察〕 教員ｱﾝｹｰﾄの肯定割合は、「授業づくり」「学級経営」共に100%であった。「授業づくり」に向けた教材分析・指導案研修,理論研修,協議会・振り返りが充実していたとの意見が多かった。講師先生と事前事後に打合せをし,本校にあった研究内容を考え,講演の場につなげた。継続した研究通信の発行は研究内容の共有や共通理解に役立った。「学級経営」へは学年での関わりだけでなく,校内での共有体制の構築,それに加え毎学期の集団づくり研修(1学期:今年度の学級づくりの土台づくり,2学期:学級の様子の途中経過確認,3学期:今年度の振り返りと来年度の学級づくりへ向けて)は目的を設定して講師先生と本校の実態に合わせて研修を重ねた。 児童ｱﾝｹｰﾄの肯定割合は、「学校満足度」「学級満足度」96.2%,「集団の結びつき」96.2%と高割合であった。授業を参観した教員ｱﾝｹｰﾄの満足度は100%であり,「実践に取り入れたい」回答割合が100%であったのは,研究テーマが「主体的・対話的で深い学び」とつながるシンプルな内容であるため真似しやすいからだと考えている。

研究コース	Ａ　グループ研究Ａ	選定番号	105
代表校園	大阪市立堀川小学校	校園長名	衣笠　博政

6	成果・課題	【見込まれる成果４】 ☐ 子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上 ☑ 教員の資質や指導力の向上 本校は大規模校であるため、教員数や経験年数、家庭事情もさまざまである。その中で、校内研究として大学教員からの理論研修、先進的研究校からの教材分析研修、実技研修、集団づくり研修を共有することで、授業観、指導観、児童観をアップデートし、学校で共通理解できる。このことは、学校力向上に大きな役割を果たす。教員のめざす授業イメージが共有化でき、教員が満足して授業づくりに打ち込むことができる。 ≪検証方法≫ 教員アンケートを実施し、「授業づくりの悩みが改善した」「研究の内容が実践につながった」の肯定的割合が８割を超える。学校満足アンケートを実施し、満足度が８割を超える。その理由をインタビュー調査することで、肯定的割合の要因を分析する。
		〔検証結果と考察〕 教員ｱﾝｹｰﾄの肯定割合は「授業づくりの悩みが改善した」が100%,「研究の内容が実践につながった」が100%と8割を大幅に超えた。その理由として,教材分析研修や理論研修,継続した講師先生からの指導をあげた。研究授業以外の他単元・他教科に活用できないか模索する教員の存在が他教員にいい影響を与えている。児童・保護者の学校満足ｱﾝｹｰﾄは上記にも示したように学力・学級満足度ともに9割を超えている。本校の教員は成長する気持ちがあり,学ぶ姿勢を持ち研修を重ねている。「昨日よりもいい授業をしたい」「自分らしく過ごせる学級・学校をつくりたい」と願い,成長を続ける本校の教職員の学ぶ姿勢への評価が児童・保護者のｱﾝｹｰﾄに表れていると考える。

		【研究全体を通した成果と課題】　研究発表会等で使用した資料や研究冊子から引用し、端的に記述してください。
		1. 新規研究（１年目）　※継続研究２年目以降は１年目の記載をコピーして貼付する
		成果〇児童に知徳体をバランスよく育成するために,年間を通してバランスよく研究を進められたことが教職員の指導力向上・仲間意識の向上,そして児童・保護者アンケート,調査結果から成果を確認できた。 〇知体の研究を通して,問い対話振り返りのサイクルによって,児童が自ら学ぶ姿へ変容を見せている。 〇徳の研究を通して,そのままの自分でいられる学校や学級づくりをする教職員の思いを共有できた。 課題●研究テーマ達成に向け教職員個々の思いを融合し,自分ごとの研究となるよう進め方を工夫する。 ●学校大規模化の課題を本校の強みに変えるための取組みを教職員と検討し,児童に還元する。 ●研究で得た知見を広く還元する方法を検討し,教職員の取組,児童の姿を伝えていきたい。
		２．継続研究（２年目）　※継続研究３年目の場合は、２年目の記載をコピーして貼付する
		３．継続研究（３年目）
		≪代表校園長の総評≫
		1. 新規研究（１年目）　※継続研究２年目以降は１年目の記載をコピーして貼付する
		学校力向上には,教員同士での共通の経験が不可欠である。同じものを見て感じ考える場を設定するための研修や研究の場を充実させることに全力を注いだ。共通の時間を過ごし価値観を共有し,子どもの見え方や授業観,子ども観,指導観を交流することで教員同士の学びやつながりが向上した。また,講師先生には本校の現在位置や方向性を指し示していただき,次への原動力をいただいた。教員の豊かな学びは児童の学びや学習環境に反映され,本校の力となり,公開授業を通して他校へと還元されたと考えている。この学びを来年度へつなげていきたい。
		２．継続研究（２年目）　※継続研究３年目の場合は、２年目の記載をコピーして貼付する
		３．継続研究（３年目）